

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第71号

## ななえ古写真物語

VOL. 71

### 明治の鉄路

函樽鉄道工事中ノ景

明治36年

七飯町大沼



現在でも、七飯町の観光名所である大沼は風光明媚な景観のため、多くの写真家たちが訪れていると思いますが、明治期から発売されている絵葉書などをみてみると、そびえ立つ駒ヶ岳の雄姿の眼下に、音を吸い込むほど静かな湖面の大沼が広がり、セピア色の世界なのにも関わらず、色鮮やかな美しさを彷彿とさせるものが数多くあります。

そういった美しい風景の一部となるかのごとく、鉄路を走る蒸気機関車の姿を写した古写真を、ピチャリ第17号「鉄路のある風景」で紹介しましたが、そこでは、大沼に鉄道が走ることになったのが、明治36年からであると簡単にふれているだけで、その経緯について詳しい紹介をしていませんでした。

ところで、大沼公園をわざわざ迂回するような形で敷設されている現在の鉄路ですが、鉄道敷設の気運が高まった当初は、国道5号と並列し真っ直ぐ北上して森町へ向かうルートだったのをご存知でしょうか？

実は、現在のルートへの変更には、当時、大沼の開拓に乗り出して間もない宇喜多秀夫らが、函樽鉄道株式会社委員長に陳情書を提出したことから始まります。

明治31年に提出された彼らの陳情書には、「我々は香川県から移住し、排水溝や道路を開削し、大豆や小豆、馬鈴薯などの栽培に励み、また、牧畜も行うなど大いに拓殖に従事したため、世間の注目をあびるようになり、将来ますます発展して一大農村になるでしょう。またこの地には温泉もあり、駒ヶ岳と眼下に大沼・小沼がひろがり湖中にある無数の島々は真に絶景であり、峠下村からトンネルを穿ち、駒ヶ岳を眺望しつつ軍川村（現在の大沼駅付近）を通り森村へ至るルートを提案したい。地方の便否の発達は鉄道の敷設と密接に関わっているし、まだ駅舎の場所が確定していないのなら、鹿部村への起点となる場所（現在の大沼駅）が適当で、軍事的に見ても鹿部村から陸路を使った物資運搬が容易になります。今日の利害よりは将来の利便を謀って頂きたい・・・」といった旨が記されていました。

明治36年、宇喜多たちの願いが叶い、鉄道敷設工事が行われている様子を写したのが、上の写真で、左下から右上へ真っ直ぐに続くのが鉄路になります。現在の大沼観光の礎に、当時の熱い想いがあったことを忘れて欲しくないと思う一枚の紹介でした。

**20日** 横津の植物観察会を開催しました。今年は趣向を変えて、紅葉を楽しみながら植物たちの生存戦略について学びました。

講師には、宗像英明先生をお招きし、子孫を残すために種を遠くに飛ばす進化をしてきたものなど、季節ごとに変わる植物たちの姿を散策しながら楽しみました。花を観察しないという一風変わった植物観察会でしたが、参加者の皆さんも楽しんでもらえたようです。



**26日** ジュニア探検クラブを開催しました。今回のプログラムは、「昔のおやつ」と題し、七飯町民文化祭に参加しました。いろいろな体験コーナーを班ごとに回ってもらいながら、せんべいのタネを作り、せんべい焼き器を使って焼いたのですが、味はどうだったかな？

また、体験コーナーでは、割りばし鉄砲づくりが面白かったようで、男の子はさらなる改良を加えて、自分だけの鉄砲を作りだすなど、モノづくりを楽しんでいるようでした。

**26・27日** 歴史館を第2会場に七飯町民文化祭が開催されました。今年も当館友の会と七飯町郷土史研究会の皆様が協力して、盛り上げて下さいました。

今年は、常設展示室の茅葺民家の中で絵本の読み聞かせを行うという新たな試みもありました。そのほか、石臼体験やせんべい焼き、レコードコンサート、リンゴの試食や工作、布ぞうり作りなど、ご来館して下さった多くの方に楽しんで頂けたようです。



## 12月の予定

1	日
2	月
3	火
4	水 夜の博物館
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土 ジュニア探検クラブ
22	日 ふぁみりーでいみゅーじあむ
23	月 天皇誕生日
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月
31	火 年末年始休館日

※12月31日～1月5日は休館日となります。

### ロビーの映像を！！

ロビーで放映している七飯町の映像に、七飯町観光PR映像をプラスしてみましたので、是非ご覧ください。



### 編集後記 ~tawagoto~

すっかり秋の気配が遠ざかり、時折降る淡雪が冬の訪れを告げています。

この時季は、虫の姿もめっきり少なくなっていますが、ちょっとテンションが下がる私ですが、この間、知り合いが面白い虫を捕まえて持ってきてくれました。その名も「ミミズク」。頭部にある2つの突起が鳥のミミズクに似るから名づけられたそうですが、生きてるのは初めて見ました。気になる方はネットで検索してみてください。(やまだひさし)

# Pichart

～ピチャリ～

第71号

平成25年11月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp